

研究課題名：COPDのセルフマネジメント教育プログラムの開発及び効果的な介入方法

申請課題名：タブレットPCを用いたCOPD患者のセルフマネジメント教育システムの
開発と効果的な介入方法に関する調査研究

調査研究代表者氏名：植 木 純

評価コメント

- ・タブレットを用いたCOPD患者のセルフマネジメントツールの開発において本邦で初のプロトタイプモデルの確立に成功した。
- ・iPadアプリケーションの開発はセルフマネジメントという観点から意義深いものがある。
- ・COPD患者の日常の療養上の要望事項を基礎に従来から小冊子やビデオなどのセルフマネジメント教育ツールが開発されてきたがより効果的なツールとして個別化・双方向性のタブレットPCを用いた機材を開発しCOPD患者について実際に検討した。
- ・iPadを高齢者でも使用しやすいように工夫し、セルフマネジメント教育に応用可能であることが証明され、今後の活用が期待される。
- ・今後はコスト軽減、多数例への援用などに取り組むべき段階にまで進行している。
- ・パイロット試験では高齢の被験者のアプリケーションソフトへのアドヒアランスは良好であったというが、もっと多数の被験者について検討する必要がある。その有用性については従来のパンフレットによる患者教育とあまり差はないということも予想される。
- ・このような方法はコメディカルスタッフを教育するための材料とし、彼らを介して患者教育を行った方が現実的ではなかろうか。
- ・COPDは高齢者層に多い。従って患者教育を必要とする年齢層も多くは、高齢者、特に後期高齢者以上の年齢層である。このような条件を考えた場合、iPadを利用してどれだけ自己管理ができるか慎重に検討する必要がある。
- ・COPDのセルフマネジメント教育のツールとして、タブレットPCを用いるという斬新な方法であるが、高齢者でも使いこなすことに無理はないとの結果であったが、学歴や収入額、職歴等のより広い範囲の患者さんに実際臨床の場で有用か否かについての検証が必要ではないか。
- ・今後はこれを広く普及、活用されるべく御配慮ありたい。
- ・iPadを用いたセルフマネジメントツールの開発と実用性のための改良を行うなど、意欲的であるが、一般の高齢者がどの程度使いこなせるかが、今後の課題となると考えられるので、さらに検証を続けていただきたい。
- ・まだ、例数が少なく、今後の臨床での利用結果が求められる。なお、用いるさまさまの状況が考えられ今後に期待したい。